（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

清川村立清川幼稚園

研究テーマ：「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえ、
幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について
～遊ぼう！学ぼう！深めよう！未来へ輝け清川っ子～

１　実践の目的

今年度は、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に着目しながら、安定した異年齢の関わり合いを通して、幼児期における一人ひとりの自己肯定感や自ら考える力の育成を目指し研究を進めてきた。

（１）　異年齢保育を通した学び合い

昨年度からの縦割り保育の基盤により異年齢の友達を身近に感じ、一緒に遊んだり、学び合いを通して一人ひとりが安心して自己発揮できる保育の実現を目指した。

（２）幼保小連携

架け橋プログラムの実施に向けて異校種間交流の機会や幼保小合同会議など教職員間の連携に努めた。園児児童の交流を通して、互いに親しみを持ち、一緒に活動を楽しむことや小学校の環境に触れることで、園児の就学への期待感と意欲を高められることを目指した。

（３）子育て支援

親子で一緒に体を動かし、ふれあうことで得られる安心感と共に、同じ場を共有する保護者同士のコミュニケーションにも繋がり、親子共に安心と信頼をもって過ごせる保育を目指し取り組んだ。

２　実践の内容

（１）　異年齢保育を通した学び合い
～一人ひとりが自己発揮できる保育を～

他園訪問研究として、平塚市立港こども園を参観した。乳幼児期の一貫した教育、保育を行っており、教師同士が連携しながら園児一人ひとりの育ちを見取り、異年齢保育を行う場でも安心できる環境の工夫を行っていた。安心できる基地（教師や場所）があることで他者との関わりが広がり、自己発揮できるようになることから、自園でも園児の思いや考えを実現できるような環境の構成や支援方法を探るなど、保育の質の向上に努めた。

（２）　幼保小連携
～幼保小の交流を深めよう～

今年度は架け橋プログラム実施に向けて幼稚園の夏祭りに、小学５年生と保育園児を招待し、『みんなで楽しい夏祭り！』と題し、交流事業を行った。事前の作業日には５年生と幼稚園、保育園の年長児がグループになり、夏祭りで使用するエプロンやサンバイザー作りを行った。園児には難しい部分を５年生が手伝いながら一緒に活動し、楽しさを共有したことで互いに親しみが生まれ、夏祭り当日に向けたことで期待感が膨らんでいった。当日は５年生にリードしてもらいながら園児、児童共に笑顔いっぱいの夏祭りとなった。異校種間職員研修や園児児童の交流を通して教職員同士が振り返りや意見交換をすることでお互いに理解し合い、園児、児童の学び合いの共通理解を図ることへと繋がった。

夏祭り作業日

夏祭り当日

５年生と一緒に
お店屋さんを
やったよ

（３）　子育て支援
～親子の絆を深める親子体操～

『ＮＨＫおかあさんといっしょ』第１０代体操のお兄さん佐藤弘道さんが代表を務めるエスアールシーカンパニーの方をお招きし、家庭でできる親子体操を行い、親子のスキンシップの機会を広め、親子関係を深めることが幼児期の子ども達の安心に繋がると共に保護者の心身のリフレッシュの場になるように親子体操を行った。

講演テーマ
『親子の絆を深める
親子体操』

３　実践の成果と課題

異年齢保育をはじめて４年が経ち、年齢を超えた関わり合いや一緒に遊ぶ姿が多く見られ、遊びの幅が広がっていった。異年齢の遊びの中で、年中年少児が年長児を真似て『やってみたい』と難しいことにも積極的に挑戦しようとする気持ちが芽生え、互いに刺激を受け、切磋琢磨する姿から育ち合いや学び合いに繋がっていることを感じた。また、年長児は自分達がリーダーとして『どうしたらいいのだろう』『これでいいのかな』と悩んだり葛藤したりすることもあったが、年長児同士の小集団で意見を伝え合ったり、年長ならではの活動を繰り返し経験したりすることで、主体的に取り組み、一人ひとりがもっている力を発揮する機会が増えていった。園児が自分で考え、自己発揮できる経験を積み重ねたことで自信に繋がり、自己肯定感が高まっていった。また、園児の疑問や発見に対してＩＣＴを活用しながら深めていくことで園児の探究心や興味関心を広めることができた。

さらに、自分達の歌や発表の様子を動画に撮って、客観的に見て振り返ることで良いところをみつけたり、課題を見つけて次の目標を考えたりすることができるようになった。

職員間の情報共有も、ＩＣＴを活用することで業務のスマート化、ペーパーレス化へ一歩踏み出すことができるようになった。

運動会年長児種目
『リレー』の作戦会議中。
クラスを半分に分けた小集団で、勝つための走順を相談中。

異年齢が集まり、年長児がリードしながらドッジボールをするための話し合い。

４　今後の展開

今年度の取り組みから、異年齢保育の中でも園児一人ひとりの良さを引き出しながら体験活動の充実を図り、主体的に活動し、ワクワクした気持ちをもって自己発揮できるような保育の工夫に努めていきたい。